

町政を問う 一般質問



松永 幸久 議員

合併問題

について

施政方針で住民が主役の町村合併を進めるとの事でしたが、今後四町合併について住民投票を含めどの様に考えておられるのか。

議会と 相談しながら

等核心部分が協議の中心になります。詳しい情報をできるだけ早く伝えていくのも行政の責任だと思います。住民投票については、議会の皆さんと十分協議しながら決断をしなければならぬと思います。

大村町長

合併協議会に参加して、合併というものが何か、合併後の姿がどういふものか示しながら町民の意見を伺っていく形となります。今後は、財産の取り扱い

実施するにあたっては、住民の意識高揚を図り、同じ目線で合併を見て頂く必要があると思います。

中心市街地活性化について

既存商店街の活性化を具体的にどの様に考えておられるか。明日の観光大津をつくる会について今後の位置づけは。

まちづくりの一翼を

町の中心市街地の活性化はどんどんやっていきたいと思っています。新年度は、新しく商売を始める方を助成する予算を計上しています。地産地消等意欲を持った人たちに是非空き店舗等を使つての開店をお願いしたいと思っています。「明日観」は「からいもフェスティバル」など既に全

大村町長

町の中心市街地の活性化はどんどんやっていきたいと思っています。新年度は、新しく商売を始める方を助成する予算を計上しています。地産地消等意欲を持った人たちに是非空き店舗等を使つての開店をお願いしたいと思っています。

国でも有数の集客力を誇るイベントを行っています。今後はイベント屋に終わることなく、まちづくりの一翼を担っていたく組織になつてほしいと思います。

つつじ台団地の下水道問題について

団地内の排水を公共下水道へ接続を早急に。

住民が安心して 過ごせるまちづくりを

金などについても、今から検討しなければならぬと思います。

桜丘団地の道路問題について

団地内未整備の道路舗装改修を早急に。

地域の協力に 感謝します

分も含め地域の方の協力のもとに道路整備等進めていきたいと思います。

教育問題について

(1) 二学期制を取り入れる考えは。
(2) 指導力不足と言われる先生が当町では。
(3) 学校長の学校全般における経営について。

二学期制へモデル校を 設置します

学習指導要領の変更、完全週五日制の導入等で少なくなった授業時間を補完していくなどの理由で全国で増えています。大津町でも十六年度にモデル校として小学校・中学校各一校で実施を考えています。指導力不足の先生について

大村町長

桜丘団地は地域の皆さんの大変な協力で、道路主体の七十五パーセントを町へ寄付していただくことになりました。今後、遅れた

大村町長

本町に二学期制が良いのか検証する意味でモデル校を設置します。子どもたちを育てるためのやり方を大津町から全国へ発信する、こんな動きも大切なことだと思います。



子どもたちの教育の充実を

「大津温泉・岩戸の里」を健康増進型温泉施設に



月尾純一郎 議員

加速度的に押し寄せてくる高齢化社会。病気で寝たきりではなく、いかにして健康で元気に暮らしていただくか。今、国は温泉療法に一つの光明を見いだそうとしている。いわゆるこれまでの入浴型の温泉施設から、健康増進型温泉施設への転換だ。

厚生労働省が認定する「健康増進型温泉施設」を「大津温泉・岩戸の里」に取り入れる考えはあるか。

存在感を高めるための方策の一つとして

大村町長
岩戸の里を今後立派な施設として、そして町民に愛される施設として立ち上げていくためには、健康増進型温泉施設というのはすばらしいアイデアだと思います。

また来たいと思う、そんな温泉センターになれば、岩戸の里をあつ場所につくった価値があると思います。

健康増進型温泉施設とする



大津温泉 岩戸の里

岩戸の里は自然環境豊かな大津の宝ともいえる大変すばらしい施設です。ゆつくり過ごして、楽しんでいただいて

ためには、①訓練や研修を受けた専門の職員を配置する②健康増進を図ったプログラムを作る③健康相談や質問に対する医療機関からの助言やアドバイス等の体制など、いくつかのハードルがありますが、厚生労働省の認可を受けることができます。

十六年度において取り組むべきかどうか、存在感を高めるための方策の一つとして検討し、できる限り最大限の努力をして、実現に向けて頑張っていきたいと思っています。

大津町の伝統工芸品「梅の花造花」の灯を消すな!!

江戸時代より大津町に伝わる「梅の花造花」は全国唯一。どこにもない。まさに町の宝と言える。その灯が今消えようとしている。国は文化芸術振興基本法で伝統文化の保護を推進するとしている。

①伝統の灯を守るために大津町は何をなすべきか。
②花びらの材料、通草紙が入手不可能となった今、どういう手を打てるのか。

伝統文化を守るのは町長の責任

武田教育長
中学校の子どもたちが、伝統文化に触れるという意味で梅の造花に取り組んでいます。今一番の問題は、材料となる通草紙とその製紙の技術です。文化芸術振興基本法に基づいて文化庁にも相談しながら、全力で伝統を残し続ける方策を考えていきたいと思っています。

大村町長
大津町の梅の花造

市町村設置型・合併処理浄化槽への取り組みを問う

有明海のノリ問題は、流れ込む七十七本の河川が原因。上流域でのし尿処理及び生活排水への真剣な取り組みが叫ばれている。汚水処理事業について町の実態は。

水資源、森林環境を大切に

大村町長
大津町の汚水処理事業は、公共下水道、農業集落排水、コミュニティプラント、個別の合併浄化槽事業があります。市町村設置型合併処理浄化槽は、個人負担が割です。た

だ、今後どれだけの地域が対象になるか調査し、見極め、その上で必要であれば実施をしていきたいと思っています。

大津町の宝である水資源・森林資源を守る上からも、下水道あるいは合併処理浄化槽による汚水処理は一〇〇％でなければならぬと思っています。

.....

花は数百年にわたる歴史があります。これを絶やすわけにはいきません。絶対にできません。保存会等の関係者の方は少人数で一生懸命頑張っておられますので、大津町の多くの人がそれを共有していくことが必要だと思います。町としてどんな形でやっただが良いか、十六年度に立ち上げて示していきたいと思っています。文化芸術を守る上で町長が責任を負うべきであると自覚しています。また、梅の造花を大津町の、あるいは熊本の伝統工芸品として位置付けるために、町の文化の発信地、伝統文化の拠点としての「文化の森」と協議していくことも必要ではないかと思っています。進めてまいります。

四町合併は大津町民のためにはならない 日本一のまちづくりは、大津町の地域・ 文化・行財政を確立してこそ可能である



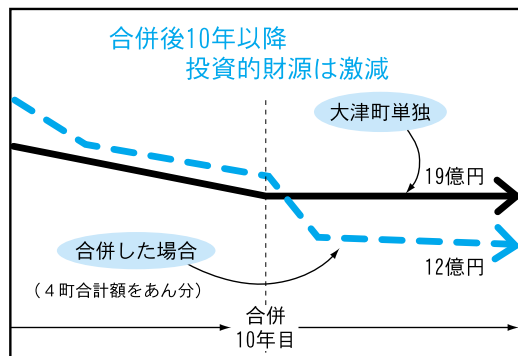
荒木 俊彦 議員

四町合併によって財政力は減少し、大津の町民にとっては良いことはない。さらに核となる中心の定まらない無理なやり方である。

新庁舎問題でも明らかに「三町に言われるまま、無理に無理を重ねていく」のは、時間と経費のムダ使いである。

大津のまちづくりの足腰が定まらないことは、町民にとって、役場職員にとっても不幸なことである。

「町がなくなっても地域は残る」と言われるが、大津の地域、町民と一体となったまちづくりは、大津町があつてこそ話である。合併すれば、町としての自治の権限はなくなり、多数決によって三町に言われるままに進んでいくことは明らかである。



住民説明会資料より荒木議員試算。
投資的財源は建設・土木など町の判断で自由に使える財源。

地産・地消の具体的政策 学校給食への活用・加工企業 の誘致が必要ではないか

地元産の農畜産物を地元で消費してもらうために、知恵と工夫、財政が必要である。農家、消費者、住民のためになり、地域経済を地元で循環させること。

特に学校給食は毎日約四千食を一つのセンターでつくっている。地産・地消をいうなら自校方式こそ最適ではないか。とりあえずセンターをもう一つつくれば、地元の農家も対応できるのではないか。

農産物の販売とブランド化、付加価値を高める研究や企業の誘致。特にからいも焼酎がブームだそうですが、北部地域矢護川の湧き水とあわせて焼酎工場の誘致なども考えられるのではないか。

合併は長期的視野で、 最後は町民の意見で判断

大村町長

財政力が豊かな町とそこまではないところがある。合併すれば、当然豊かなところも均一化されますから、目減りしてくることは、現実の問題としておっしゃるとおりだと思います。ただ、

合併というものはもう少し長期的な視野で二十〜五十年後の地域のあり方を見るべきものではないかと思っています。

協議会の中で町づくりを模索中です。その中身を町民の方にお示しして、ご意見をいただいて判断することになるかと思っています。

センター方式で工夫したい。 からいも研究所・地場産業に努力

大村町長

自校方式が良いかもしれないが、センター方式は、しばらく堅持したい。その中で地産・地消を進めるためにJA、畜協給食センターも参加していただいて、二回目の話し合いも計画しました。

付加価値を高める点で私案ではありますが「からいも研究所」「地産・地消研究所」でも立ち上げられたらと思います。

企業誘致についてはご指摘のように農業生産に関する企業、焼酎メーカーなど地場産業に目を向けて地産・地消の町を目指したいと思っています。

武田教育長

給食センターでは地産・地消にいち早く取り組み努力をして、特に米飯は大津産の米を使っています。最近では、生産者個人からの納品も受け付けています。

ただし、四千食近くの材料ですから、からいもなどは対応できませんが品物によって難しいものもあります。センター職員と相談して調理方法を工夫すれば小口に対応できるのではないかなど、大いに推進したいと思っています。

トンネルは整備区間 国の資源確保しだい

指定され、翌九年度に調査区間のうちの5kmが阿蘇大津道路として整備区間となっており、整備区間となりました。

大村町長 中九州横断道路は、大分を起点とし熊本市に至る約百二十kmの地域高規格道路で平成六年十二月に計画路線となりました。平成八年度に阿蘇大津間の十四kmが調査区間に

の、修正が難しいトンネルでの整備が予想されるために、地質的地下水関連の慎重な調査が必要となっており、現在調査が行われている段階です。国土交通省の話では、本格的な工事への着工時期は未定だということでございます。また国道五十七号線の四車線化と並行した阿蘇大津道路の整備は、国の財源確保が一番の問題ですが、関係市町村発展のために必要不可欠な道路であり、熊本市のほか十三市町村でつくられました中九州地域高規格道路期成会の会長は阿蘇の町長ですが、この期成会で国土交通省への要望活動、情報交換、住民への啓発活動等を行っております。

北部地域発展の糸口を作る中九州高規格道路のその後の進捗状況はどうなっているのか。

中九州高規格道路について



藤坂 重美 議員

大津北小学校建設について

大津北小学校建設について施政方針で町長の思いを聞いたが、町長自らの指導力で一日も早い決断を望む。

検討委員会と 相談してすすめます

武田教育長

統合のときに六年を目途に新しい学校を造ると約束しております。大津町小中学校通学区域及び教育施設検討委員会に諮問しながら検討をいただき、座談会等もやっていただいております。中間報告をしなければならぬ時期に来ております。鋭意検討委員会で皆さんのご意見を聞きながら進めたいと思っております。

北部地域過疎対策について

住宅建設定住圏構想はないのか。畑総事業一工区内の幹線道路計画について現在どうなっているか。畑総事業一工区の方針について。

大村町長

北部地域の過疎対策についてですが、これは北部地域に限らず、中心部以外のところは人口が減って、あるいは高齢化して、少子化が進んでいる地域だと思います。住宅建設等については、大津町は販売用住宅地がやや過剰な状況です。農村地域、農業集落が今から発展していくためには、その地域で本当に住みたいと思える政策が必要です。次に畑総事業ですが、まず一工区幹線道路は約一〇km、幅員は七mです。三二五号線の工事の関係ですが、十五年度で、三月末に竣工確認検査



3校が統合した大津北小学校

が終わり、四月末日までには開通の予定です。上中の関係ですが、今面工事がほとんど終わりました。その東側の中で経済連の西側の道路の計画はどうなっているかということですが、県の方針畑総事業の中で地区外的に当然必要だということ、十六年度に県予算の計上をしていただいているところですが、非農用地ですが、約七haのうち二ha分はスエデポニックス社というところで協定をさせてもらっておりますが、通常野菜工場でパセリとかホウレン草とかの葉ものの施設です。実施時期は未定です。

管理職（課長）の人選は職員自らの選挙による選考は



大田黒英生 議員

財政事情厳しい中、住民ニーズにどう応えるか、私達議員の意識改革も必要となり、また行政に係る役場職員も意識改革が求められる時です。その為には、自分達の職場は自分達でつくるんだという認識を持ち、自分達のリーダーには誰がふさわしいか、この人の下なら自分も頑張ることが出来る、また自分達が選んだ人だということで選んだ事への責任感を持ち、仲間を大切にしながら、町民に対する重要なサービス機能であることを今以上に認識するために、リーダーである課長の人選は全職員自らの手による、選挙という選考方法はいかなるものか。町長の施政方針の中で、行政に係る職員が丸となって目的意識を持ちながら頑張らなければならないと提案されました。その為にも

課長の人選は、職員の選挙による方法がよいと思います。改革をする為には、勇気と決断が必要です。町長の考えを伺いたい。

新たな評価制度のスタートを

大村町長

現在の行政の人事システムは年功序列による人事であり、勤務年数による昇給・昇格制度であります。その為には勤務評価が反映されにくい面があり、私もそういう状況であれば改革する余地があるかと思えます。課長としての資格は、行政能力と責任能力これが備わっていないければいけないと思います。行政の責任者としての自覚の有無、また職員に対する管理、指導能力であり、もっ



大津町役場

とも大切なことは町民の皆さんに対する説明、対応能力、これが非常に求められるところだと思えます。以上の様なことを考えますと、課長は大変な重責であり、選ぶにあたっては能力があるか、やる気があるか、責任感を持ち合わせているかを見極め、選考するのが人事ではないかと思えます。民間の会社だと車十台売った人と全然売らなかつた人との差は、ストレートに表れますが、これを役場にあてはめることは、評価の物差しが違う為、今後は今までは管理職から職員を評価するのが日常的でしたが、やりがいのある職場をつくる為、管理職の努力度調査とかの柔らかな評価制度をスタートさせ、管理職の方々がそれに対して素直に結果を受け止め、町民の皆様の期待に応える職場作りに努力いたします。

合併協議会の中で町財産（スギ・ヒノキ）の取り扱いについて

当町にも建物、土地等各種の財産があります。勿論相手三町にもかけがえのない財産があります。当町には南北に瀬田裏原野等の広大な土地があり、この土地に先人達は五十年、百年先の町のことを思いスギ・ヒノキを植林され、現在立木として資産評価され二十二億円の答えが出ました。この二十二億円の資産は先人達が将来の大津町を思い植林後町の立派な財となすため、夏の暑い時の下草刈り、枝打ちまた間伐等を長年にかけて汗水流しながらの結果が、この二十二億円という立木の資産です。先人達の汗水の二十二億円の資産を合併話し合いの中でどう取り扱われるのか。私は「これは三町で使って下さい」とは絶対に出来ませんし、三町が合併したら共有財産

と主張するならば、協議会から離脱すべきです。日本一のまちづくりを目指されている町長の二十二億円という財産を無にすることのない町長の答弁を期待します。

先輩達の汗水です。大切に処理します

大村町長

大部分で、「皆で使います」ということは町民の方々に理解いただけたいと思いますので調べてみましたら、地方自治法二九四条で財産区があり、合併しても大津町だけで使える区分として持ち分を設定することが出来ますので、今後合併協議会の中で検討いたします。

大津町の長年の蓄積されました財産です。大切に処理いたします。

先輩達の努力されたお蔭で、五百町を超す町有林があり、その中で四百町歩にスギ・ヒノキが育ち、製品化した場合は十三億円と見積もられました。三町に比べ突出した部分で、



町有林の価値は約22億円



子どもたちも町づくりに

子ども、若者の参加の機会を考えます

この特区事業は多くの町民の方との対話、ご意見の中から生まれた非常に画期的な町独自の事業だと思っています。

まちづくりは、

多くの人たちが参加することによってはじめて成功するかどうかが決まります。

住民が自ら考え行動、決断

ミニ特区事業と町民参加のまちづくり

ミニ特区事業は、住民参加による新しい文化創造施策である。また、町民対話室の設置をただ相談所に終わらせず、住民の意見を集め施策に反映させるといふ体制は評価に値する。

あとは、若者と子どもたちの参加だ。幼稚になつてはならないが、若者の活力と子どもたちの想像力を生かすことが今後の繁栄の要であり、全町民参加のまちづくりと考える。



永田 和彦 議員

大村町長

地産地消と道の駅の活用

大津バイパス沿いに地産地消のシンボルをつくり、からいもの町大津をPRするとあるが、道の駅は活用できないのか。

大津の情報発信基地として、莫大な公金を投入した施設を最大限に利用すべきであり地産地消を契機として町民が利用し、町民が誇れる施設へと発展させよう。

町と生産者・文化の森で協議

大村町長
ご意見のとおりの文化の森は、文化・物産の拠点となるべきです。JA取れたて市場も好評ですが、地域外の

多くの人、年間数百万人のお客さんをターゲットとした拠点として、どう活用するかが問題です。

そのために町と生産者がどうしたらいいか。梅の造花のコーナーを作るとか、無農薬

し、自分たちの地域を自分たちで創りあげていく。そういう意識の高まりがあつて成果が期待できると思います。この間、合併説明会に若い世代の参加が少なかつたことは行政の反省とともに、残念な思

いです。子どもたちの自由な発想、素直な発想をまちづくりに取り入れていくことは大切です。

「わきやもんまちづくり会議」など若者が気軽に参加できるような機会も模索すべきかと思っています。

武田教育長

小中学校において、子ども

たちが自分で課題をみつけれ、それを解決する力を身に付けるため総合的な学習時間が設けられ、南小では県の環境教育指定校となり、地域との連携も強まり、環境フェスティバルも開くようになりました。大津小では上井手川の活性化について取り組んだり、各学校で農業体験や社会学習で地域施設のあり方などについて学習勉強しています。

学校と地域のつながり、まちづくりにどう影響を与えていくか。そこまで考えられるよう努力していきたいと思っています。

雇用の創出に向け人も配置

大村町長

企業誘致の有利性についてPRに欠けている事は同感です。今ある企業に頑張っていたくとも新たな企業誘致のため

にも、熊本空港と肥後大津駅の交通アクセス、町内巡回の交通網も整備しなければなりません。

雇用の創出について大賛成です。その前進のために雇用問題の担当者是非設置したいと思っています。

大津町の進むべき方向

栽培の野菜を売り出すとか、お互いに知恵を出し合つて行きたいと思っています。

企業の新設する生産拠点が国内に回帰し始めている。この機を逃してはならない。豊富な水、環境問題への対応、JA、空港、高速道路という物流への対応、人件費や地価は妥当、といった企業が求める立地条件がそろつたが町の進むべき方向はズバリ!! 雇用が生まれる町だ。

地産地消の拡充に 努めます

大村町長
文化の森（道の駅）と行政との意思統一を図るため相方の共通目標を確認して行政と地元の協力関係を進めるためには、JAとの協議連携が不可欠だと思います。今回は地

域再生計画のなかで、からいもが育む地産地消の町づくりを提案していきたいと思います。また、文化の森と商店街との地産地消、農作物の販売をどうするのか、文化の森、あるいは、地元商店街にそういう施設を造る補完的な部分が必要だと思えます。関係者が一丸となって協議を重ねることに取り組んでまいります。

熊本文化の森は道の駅を併設した風土と暮らしと伝統的文化を融合した地場産業の発信基地として、またゆとりある生活を提案することを目的に国道五十七号線沿いに誕生しました。しかし、現況をみますと遊休施設が二ヶ所あり、全体的景観上イメージダウンとなっているように見受けられます。只今、食と農、安全が叫ばれているなかJAでは、とれたて市場を拠点に地産地消の取組みが行われていますが、消費者の動向をみますと、特定の顧客利用に限られており、場所的にも消費者の拡大は望めない現状を踏まえて、行政主導型の物産館として地場特産品の付加価値をつけると共に、情報交流、観光発信・拠点として再利用出来ないものか、また、地産地消に基づく複合機能のもとに相乗効果による消費拡大を図ることが地域の活性化に繋がるものと思われるが所見を伺います。

文化の森、道の駅の再利用について



手嶋 靖隆 議員

宿場通りの再現について

本町において、昔をしのぶ観光の核となる歴史、文化的なものがない状況を踏まえて、静かな上井手沿い（堀川）塘町を宿場通りとして、西方面の大願寺、東方面の光尊寺、石橋を拠点として計画を考慮した建造物再現、散策通りを形成した街並の再構築される取組みの考えはないか、所見を伺います。

文化財を生かした 宿場町の再現に努めます

大村町長
宿場町の再現は、本町の歴史的な文化遺産でありますので上井手と共通した課題と思います。このことについては、数十年前から意見が取り交わされていますが、行動として見えてきておりません。過去

の経過を踏まえて、今年は行動あつて議論ありで取組みたいと思います。上井手は農政サイドで実施します整備事業と並行して、護岸はできるだけ自然石に似た雰囲気をつくるように整備を進めます。とりあえず大津公民館前から東の方の方向へ一次事業として二百m程、カラー舗装して所々にベンチも設けて植栽しゆつくりと散策できる街並を造ります。

住民基本カードの 取扱いについて

昨年の八月二十五日から稼働を始めた住民基本台帳ネットワークは、個人情報保護の漏えいなど、さまざまな問題点が指摘されてきたなか、この度住民基本カード発行に伴い、不正取得事件

住民カード交付には 慎重を期します

大村町長
住民カードの交付については、本人を確認するために運転免許証とかパスポート、その他官公庁が発行しております顔写真付きの許可証とか、各種証明書等により本人確認が出来た場合に交付をしております。また、証明するものが不備の場合は、配達記録郵便により文書で照会を本人にして、その回答書と家族構成など質問し本人確認の上、交付にあたり慎重に取り扱います。

の発生にあたり、本町において交付の際、本人確認手続きに、どのような防止策をとられているのか、また、事前自主対応策等についての所見を伺います。



塘町通りの上井手と石橋



道の駅の活用を

四町法定協議会から離脱せよ



坂本 典光 議員

三位一体の改革で地方は交付税等が一二%削減されることになった。交付税に頼っている町村は緊縮予算を強いられている。一方、我が大津町は自主財源が豊富なため、あまり影響を受けない。

例えば十六年度の予算書を見ると合志町の法人町民税（企業からもらう税金）は約一億二千万円、大津町は十二億円。大津町が財政的に突出している。

財政力指数も大津町が四町の中で一番すぐれている。四町合併して大津町は財政的に得することはない。

さて四町合併すれば、大津町は都市計画上、市街化区域と市街化調整区域に分けられる。田・畑・山林は、ほとんど市街化調整区域となる。市街化調整区域では特別の場合を除いて、家を建てることができない。もちろん、ミニ開発、アパート建設はできなくなる。

これは大津町民にとって大変なマイナスになる。土地の価格が暴落するのです。

国道沿い、県道沿い、大きな町道の近くは特に危ない。室町、新、灰塚、下町、上町、陣内方面、森、引水、高尾野、杉水地区などの町民は大きな影響を受けるでしょう。市街化区域と市街化調整区域の線引きをするというところは、そんなに大きな問題なのです。

近い将来に判断するときがくる

大村町長

合併しなければ成り立たない市町村がある。そういう町村が大半かもしれない。幸いにして大津町は合併しなくてもやっていける市町村の一つです。合併しなければやっていけない市町村は、合併当然論であって、議論が急テンポで進んでいます。

もう一つの姿として、合併をしなくてもやっていける市町村は合併是非論。合併をした方がいいのか、しなくてもいいのか、そういう議論が今、全国各地で起こっています。大津町は合併是非論の中に入るわけです。

私たちの責任としては、合併協議会というものに参加をして合併したとした場合の姿をお示ししてこそ、初めてその町の責任が果たせるのではないかと、ということでの合併協議会への参加でございます。ですから今、離脱するわけにはいかないんです。

この機に大津町を見直していただいて、大津町が取るべき姿を、判断しなければならぬ時が近い将来くると思います。

プロジェクトを組んで、高齢者、年金生活者の生活の実態を調査せよ

少子高齢化で、年々年金は減額され、介護保険料は上昇している。

高齢者、年金生活者は経済的にも精神的にも追い込まれている。早急にプロジェクトを組み、生きがいや生活に関する詳しい実態調査をして、町として何ができるか検討すべきである。

取り組みたい

大村町長

高齢者福祉、生きがい、そして夢、私も含めてすべての人が高齢者になるわけですから、大津町の少子高齢対策の事業の一つとしてこのプロジェクトチームあたりの編成というのは是非取り組みたいと思います。



デイサービスの風景

汚染され続けている有明海を守ろう

瀬田裏原野で、沖新漁業組合の人達により漁民の森の植林がありました。有明海の海を守りたい一心からだと思えます。私達大津町民も白川中流で生活し、生活水も白川に流させてもらっています。川の中流域の大津より、有明海を守るために、汚染せず海に流す努力をして、流域の市町村に発信しようではありませんか。



藤森昭二朗 議員

全国に誇れる環境の町を

大村町長

今、大津町から有明海を再生するぐらいの環境対策の心意気を示すべきときが来たのではないかと思います。その意味で私達

大津町に立派な自然、森資源を育み、残された先人達に心から感謝致します。

大津町は、十六年から環境の森構想を立ち上げて、全国に誇れるような環境対策を進めていきたいと思えます。今回、星田ゴルフ場跡地の矢護川の原野を買い取る計画をしています。また、産廃の不法投棄の現場となった瀬田裏原



白川の流れ

野には、熊本市の沖新漁協の皆さんによって広葉樹を植林していただきました。また、有明海の水質汚染の原因といわれる生活排水等についても謙虚な姿勢で取り組んでまいりたいと思えます。

年末に国道三二五号のケヤキ並木にクリスマスイルミネーションを飾ったら

国道三二五号から陣内線までのケヤキ並木に日本一のイルミネーションを飾ったらどうか。

大村町長

国道三二五号から空港へのケヤキ通りは大変すばらしい景観です。イルミネーションについては、交通事故等が起きないかと懸念されるところです。大津町の子どもたちへのプレゼントとして、役場前の広場やかぶと虫公園を中心としたジャスコ前の通りにではしないかと思っています。警察や地元の方、関係企業等とも十分打ち合わせの上で、可能であれば財政負担がないような形で進めたいと思います。



ケヤキの並木

今年の秋は、町有林のドングリ山を次世代の子どもたちの体験の場に利用出来ないか

大津町には瀬田裏、矢護川にくぬぎ山があると思う。大津は自然が多くあり、生きた体験のできる先生ではなからうか。秋には、町有林のドングリ山を、子どもたちの体験の場に利用することは出来ないか。

大村町長

大津町には、数百ヘクタールにわたる森資源、森林資源、いわゆる草資源があります。これを行政は生かしていかなくてはなりません。子どもたちのことを考えたときに、今満足

しすぎるほど満足していると言われる生活の中で、むしろこういう自然を活用した教育、あるいは遊びが大事ではないかと思っています。今、日本では二十年前、三十年前には到底考えられなかった子どもたちを巻き込んでいろいろな事件が起きています。私達は、学校だけ

自然を活用した教育・遊びが大事